

「最も美しい村」には、とびきり素敵なレストランがよく似合う



① 初戦、トゥールーズでの対アルゼンチン戦を観戦中



松尾 雅彦
カルビー
相談役

2005年、7町村で誕生したNPO法人「日本で最も美しい村」連合。毎年順調に参加町村を増やし、2009年には33町村になった。「観光」が成長産業の中心に座り、「美しい村」に光が当たり始めた。このNPOのご本家は、1982年に創設された「フランスで最も美しい村」協会である。ご縁は1998年フランスで行われたFIFAワールドカップ観戦ツアーに始まる。

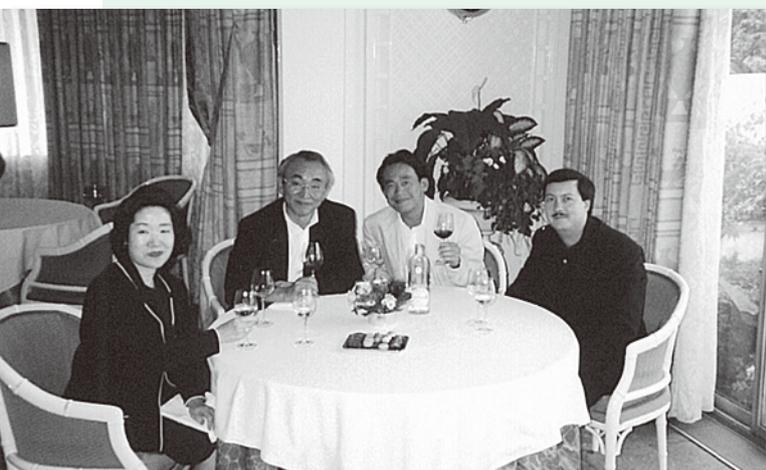
カルビーは、地域活動をベースにしたJリーグの運動に共鳴し、発足と同時にスポンサーとなった。念願のワールドカップ初出場が叶い、川淵チェアマン(当時)の引率で観戦ツアーに参加した。

6日の滞在期間中、フランスの田舎を訪ねて、「農



村に花開く」フレンチレストランを食べ歩く計画をお願いした。私の依頼を受けて待っていたのが、当時、博報堂パリ支局のジェロームさん。しかし、残念ながら、その年のポテトチップス用馬鈴薯の作柄は極めて低調で、私のフランス滞在はわずか2泊となり、日本に引き返すことを余儀なくされた。トゥールーズから空路パリに戻り、夕刻の便までの数時間、案内されたのが、ブルゴーニュの入り口JOIGNY村に店を構える「サン・ジャック (La Côte Saint Jacques)」であった。さすがに、産地名店の香り高いワインと、蒸し鶏の食感は忘れがたいものになった。心地よく機中の人になり、帰国した。

その後しばらくしてパリから、「フランスで最も美しい村」協会の活動を伝える情報が、私にもたらされた。この情報で特に私が注目したのが、この協会の発祥が、フランス政府の財政逼迫^{ひっばく}に起因した約38,000の村(コミュン)の統合推進に反旗を翻した村の運動であったこと。日本でも市町村合併の政策により、各地で村落の崩壊が始まっていた。この協会の情報を私が北海道美瑛町の浜田町長に持ちかけたことに端を発し、現在その美瑛町にNPO「日本で最も美しい村」連合の本部がある。



② 右端からジェロームさん、河合さん(いずれも博報堂(当時))